

千曲市復興計画住民説明会⑤ 議事録（要旨）

○開催日時 : 令和3年1月31日（日）午後3時～5時

○開催場所 : 千曲市役所 301会議室

○出席者 : 小川市長
大内総務部長、竹内企画政策部長、島田市民環境部長、竹内建設部長、
齊藤経済部長、小林企業立地担当部長、荒川健康福祉部長、
中曽根次世代支援部長、滝沢教育部長、堀内議会事務局長

○参加者数 : 市民22名

1. 開 会

2. 市長あいさつ

（第1回説明会と要旨同様）

3. 千曲市復興計画（案）の説明

（第1回説明会と要旨同様）

（事前に配信した動画を使った計画内容の説明）

（感染症対策のため換気及び暫時休憩）

4. 質疑応答

（質問者①）

・今回の災害では、市民が避難した際に本部が機能しておらず、何をすれば良いか分からないといった事例があったが、災害が起きた場合、災害対策本部はどのように立ち上げるのか。また、市民はすぐに本部と連絡を取ることはできるのか。

（回答：総務部長）

・本部の立ち上げは二段階になっている。台風を例に説明すると、事前に大きな被害が予想される場合には、まず副市長を本部長とした「警戒本部」を立ち上げる。警戒本部では、過去の例から事前の備えが必要な場所を検討したり、避難所や土のう設置の準備などを行う。

次の段階として、増水により河川の水位が一定以上となった場合などに、市長を本部長とした「災害対策本部」に変わる。これは実際に災害が発生したことに対応する本部となる。

19号台風時の例では、災害前日の10月11日に警戒本部を立ち上げた。翌12日は午後から本格的な雨となったが、当時の市長の判断により、昼頃には早めに災害対策本部を立ち上げた。

対策本部立ち上げ後の情報などが上手くいかなかったという指摘は、避難所に関することが含まれていると思う。これについては、本部の判断で24か所の避難所を開設したが、正直なところ人員が足りていなかった。災害対応に出てきた職員を順次それぞれの避難所に配置していったが、慣れていない職員が避難所の担当となり、何をやれば良いか分からないという状況になった。今回の反省についても復興計画の中に載せている。

市民の声については、本部の隣に電話回線をまとめ、10人程度の人員でお受けした。電話の内容についてはその都度、対策本部へ伝わるような態勢をとっていた。

(質問者①)

・実際に水がついた方にとって、どのように助けが来るのかが分かる必要がある。避難に関しても、どのように行動するかを市民に適時知らせるべきでは。本部、職員、消防などの連携が上手くいかないと災害時には救助などが機能しない。今回の災害は一つのシミュレーションになったと思うが、本当に困った時にどのように助けがくるのか心配している。

(回答：総務部長)

・これまで経験のない大きな災害で、現場が戸惑ったことは事実。この反省を活かして今後しっかりと災害対応をしていく。

避難に関して、今回の災害では、暗くなる前の避難を促すということで午後5時には市内全域に避難指示を出した。防災メールや屋外放送、消防団の広報などにより周知をしたが、「この辺は大丈夫」と考えている方も多く、どの程度情報が伝わったのかも課題となっている。

そのため、市が情報発信の充実を更に研究していく必要があるとともに、市民の皆様の防災意識向上も必要と考えている。マイタイムラインにより災害時の行動を自ら考えて頂いたり、地域防災計画により区などでどう行動するかを考えて頂きたい。

(質問者②)

・大型土のうが設置されたが、高さは1m程度。この高さで十分という根拠を示して頂きたい。また、今後さらに高くする予定はあるのかお聞きしたい。

・「新設する公園敷地内地下への雨水貯留施設等の整備」とあるが、既存の公園や施設にも設置する考えはないのか。

・市役所前の道路舗装を直していたが、なぜ透水性舗装に変えないのか。流域治水という観点から市全体で実施すべきでは。

・Bブロックの浸水対策方針で、上流で分水等の調整をするとあるが、これはいつまでに検討するのか。また、検討結果をどのような形で市民への周知して頂けるのか。

・災害直後、千曲橋と栗佐橋の間で堤防の一部洗堀があった。当時国で応急復旧をしたと思うが、現在その箇所はどうなっているのか教えて頂きたい。こういった情報を市民へ周知することも災害のソフト対策として非常に重要ではないか。

(回答：建設部長)

・大型土のうはおおむね2m程積んでいる。ただ、高さについては今回の災害での洪水痕跡高である標高363.5mに対して、霞堤の上端部分で標高364mとなるよう設定させて頂いた。霞堤は南に行くほど低くなっており、それと同じ高さまで大型土のうを積むと、堤防自体が心配になる。そのため364mに高さを設定し、それ以上水が増える場合でも、霞堤の先端から水が溢れる形となる。基本的に、同じような状況となった場合はおおむね被害を抑えられるという計算で設置した。

・雨水貯留施設については、今のところ新設の公園に設置するとしている。ただ、今後公園を再整備する際には既存の場所にも設置を検討したいと考えている。

・大型の市道に関しては、基本的に排水性舗装としている。透水性舗装は交通量の多い箇所では痛みやすく整備が難しい。

排水性舗装は二層となっており、一層目で若干の貯水をする事ができる。この舗装をすることで通常の舗装よりも若干ではあるが側溝への排水を遅らせることができる。今後もこのような方針で進めたいと考えている。

・東林坊川の改修は元々は五十里川のショートカットとして整備していた。しかし、今回の災害では千曲川からの越水・溢水ということで、その水自体を飲みこむことができなかった。

今後遊水地を整備する中で、遊水地の外側に東林坊川が流れる形になるという話を聞いている。そのため東林坊川は単独の河川として水を出す事ができる状況となり、その中でショートカットをしたいと考えている。また現在水の流れのネックとなっている二か所の改修を進めているところで、一か所は来年度中、もう一か所も再来年度までには改修を終える予定。最終的には国の遊水地整備と併せて、東林坊川もある程度の水が流せる状況になると考えている。

・千曲橋と粟佐橋の間の応急復旧はおおむね終わっている。おっしゃる通り、市独自では復旧の状況をホームページなどでお伝えしていなかった。千曲川河川事務所のホームページなどには情報があるかと思うが、市としても連携をとって、市民の皆様へ公表ができるよう考えていきたい。

(質問者②)

・排水性舗装を進めていくということだが、流域治水という観点から言えば、メンテナンスに費用が掛かるから透水性舗装をしないという考え方ではなく、浸水被害を少しでも軽減するという考え方をすべき。安心安全という中で、わずかな効果であったとしても透水性舗装にするといった考え方に改めて頂きたい。

・新設する公園というのは今現在、どの程度考えているのか。個人的には今ある公園などに設置した方が効果的ではないかと考えているがいかがか。

(回答：建設部長)

・今回の市役所前の道路については、交差点ということで非常に舗装の痛みが激しかったため排水性舗装とした。大きな道路に関しては極力排水性舗装で対応したい。ただ、舗装だけで対応するのではなく復興計画の中にある通り、雨水の調整ができる施設などでの対応を検討していく必要があると考えている。

・現在は、屋代5区に公園を新設する計画がある。まずはそちらに貯留施設を整備していく。既存の公園については、数が多いことからすべてをすぐに整備することは難しい。そのため改修に併せて進めていきたい。

雨水の貯留方法については、土の中に構造物を入れるとなると費用が掛かってしまうことから、極力お金の掛からない方法も検討していきたい。

(質問者③)

・稲荷山では今回の災害による被害はなかった。これは自衛団を中心とした住民による地域を守る活動の成果。一年か二年に一度は長野市との境にある松節の水門から溢水して荒町地区で水がつくが、自衛団を中心に何十年もこれを防いできたところ。

ただ、条件次第では今後浸水被害が発生しないとは限らない。現在、千曲市から二台、長野市から二台の合計四台で排水をしているが、もう少し降雨量が増えると間に合わなくなるため増設をお願いしたい。

・ポンプは千曲市と長野市からそれぞれ設置頂いているが、両市の連携はどうなっているのか確認したい。水門が両市の境にあるため関係が曖昧では困る。

・19号災害では自衛団がぎりぎりまで水防活動を実施したが、自衛団の災害における補償はどうなっているのかお聞きしたい。

(回答：建設部長・総務部長・経済部長)

・ポンプの増設については内部で検討、調整させて頂く。

- ・長野市との連携については、通常災害が発生すると災害対策本部同士で繋がっているため、その中で進めていきたいと考えているし、現在も対応しているところ。
- ・補償の話だが、消防団は市の特別職の非常勤職員となるため、何かあった場合は公務災害が適用されるが、自衛団の場合は適用とならない。自衛消防に対しては市から若干の補助をさせて頂いているが、原則的には地元の保険等で対応して頂くのが現状。ただし、水門施設の管理者、水利施設の維持管理者の皆様に関しては、市で保険を掛けているため、万一の場合には市で対応ができる。

(質問者③)

- ・水門の管理は国土交通省から委託を受けているため、そちらからの補償があると思うが、我々自衛消防は任意の団体。自衛団は区長の指示で動くが、今回の災害のように身体の危険を感じるような場合、万一の補償がなければ出動命令を出せない。それらを考慮して市で何らかの補償をしてもらえないか。市ではできないとなれば、地区で考えなければならない。

(回答: 企画政策部長)

- ・不確かな情報で申し訳ないが、区・自治会で加入しているコミュニティの保険がある。自衛団の活動が、区・自治会の行事に該当すればこの保険の補償対象になると思う。ただ、自衛団が該当するかについては不明であるため、確かめた上で回答させて頂きたい。

(質問者④)

- ・千曲川の水位が一定以上になれば、ポンプでの排水はできないという理解で良いのか。
- ・流域における対策として「支川水路における氾濫抑制」「雨水排水系統の見直し」が記載されている。信濃川水系緊急治水対策プロジェクト（以下、「治水プロジェクト」という）と連携して治水対策を進めるということだが、費用面等の支障がないのであれば、市でできる対策についてはすぐにでも対応して頂きたい。ポンプ場が停止すれば必ず内水氾濫が起こることなので、できることから対策を始めて欲しい。
- ・農業用幹線水路を雨水貯留に利用するといった対策も記載されているが、これは水がたくさん流れている状況で実施しても効果がない。可能であればなるべく空にした状態で実施して頂きたい。またそのために、できるだけ早く千曲川からの取水を止めて頂きたい。
- ・ポンプ場を停止する場合には、市民に対して情報発信をして欲しい。
- ・避難所では市職員の対応が悪く、辛い思いをさせられた。復興計画では、市職員の対応を改善するとともに、マニュアルを整備すると記載されているが、このマニュアルは市民に公開して頂けるのか。

・この説明会の議事録もなるべく早く公開して欲しい。議事録を見ての意見もあると思うので、復興計画を策定する前に公開するようお願いしたい。

(回答：建設部長・総務部長・事務局)

・尾米川排水機場の場合、千曲川の水位がおおむね5mを超えると、国との約束でポンプを停止しなければならない。これは下流に住む方のためであり、またポンプの構造上排出ができなくなる。ただし、災害が発生した状況ではパッケージポンプを利用して速やかに対応したい。

また、治水プロジェクトの中で、ポンプ場の耐水化を実施する。この耐水化とは、水がついた後、河川水位が下がればすぐにポンプ場を稼働できるようにするための施設整備であり、来年度から進めていく。

・埴科幹線水路は、田んぼを使う夏場の集中豪雨では難しいが、事前に分かっている台風や春先の長雨などでは速やかに取水を止めることになっている。そのため、今回の台風災害でもほぼ水路の中は空であったと考えている。

・今後、幹線水路に水を溜めることについては、危険を伴うことも予想されるため、良く検証した上で進める必要がある。また、田んぼダムについても、中山間地で必要以上の水を溜めると土砂崩れなどの危険が生じることから、できる限り平地の中で活用できる場所を検討したいと考えている。

併せて、すでに実施していることとして、学校の改築時に雨水貯留施設を整備している。これは、大きな面積の場所に降った雨水の流出を若干でも遅らせる対策で、今後も学校の改築があれば進めたい。他にも、大型開発の際には雨水貯留施設を整備するよう指導したり、1,000㎡を超える宅地開発については極力浸透枳を設置するよう指導している。こちらも今後継続していく。

・ポンプ場を停止する際の情報発信については、別日の説明会でも同様のご提案を頂いた。その時はサイレンを鳴らしてはどうかということだった。ポンプ場は国も含め管理者の異なるものが複数あることから、ある程度同じような状況で進める必要がある。

また、サイレンでは大雨の場合聞こえないことがあるため、より良い方法がないか検討する。例えば災害対策本部から何らかの情報を発信するとか、ポンプ場に何らかの目印を設置するなど考えているが、少しお時間を頂きたい。

・避難所の対応でご迷惑を掛けたことについては、重ねてお詫びしたい。今回の反省を受け、避難所については抜本的な見直しを実施しているところ。

一例としてマニュアル整備を進めているが、先ほどご質問があったマニュアルの公開についてはしっかりとまとめた上でホームページで閲覧できるようにしたい。

今回の災害で、職員が何をしたら良いか分からなかったことは、何より訓練不足であったと考えており、今年度は職員向けの訓練を三、四回実施したところ。訓練内容

も実情にあったものとして、パーティションの組み立てや受付の方法、コロナウイルスへの対応やペットを連れた避難者への対応などを実施した。

また、避難所の責任者を事前に決めておくことで、例えば学校が避難所であれば、学校側と綿密な打ち合わせを実施できる体制を整えているところ。

このように市も改善を進めているが、市民の皆様にも一つお願いがある。避難所には自宅へ帰れずしばらく生活するものと、緊急避難所として一時的に逃げるものがある。

この緊急避難所については、市職員も正直申し上げて手が回らないところがある。避難された方からは水や食料が欲しいと要望があるが、どうしても堤防からの溢水のような災害そのものへの対応を優先せざるを得ない。そうなると物資が滞ることも考えられるため、是非とも食料などをリュックに入れるなど用意をして頂きたい。市も今後啓発を進めていく。

・議事録は事務局でまとめた後、確認のため庁内で決裁を頂き、順次ホームページに掲載していく。なお、計画に対するパブリックコメントは2月3日まで実施している。受付終了後、担当する課で回答し、策定委員会に諮っていく。そうして策定を進めた復興計画は、最終的にはホームページで公開する。

(質問者④)

・市役所に問い合わせるとホームページに書いてあるという返答をもらうことが良くある。ホームページを見ることができない方もいる中で、情報伝達の手段を工夫して頂きたい。同時に速やかな情報伝達をお願いしたい。

(回答：事務局)

・ホームページ以外で市民の皆様へ情報伝達できる手段を庁内で考えたい。

(質問者⑤)

・復興計画の基本方針について、方針1と方針2は逆にすべきでは。まず「安全・安心なまちづくり」といった災害防止対策が先にあって、それでも災害があった場合に「住まいと暮らしの再建」を実施すると捉えた方が良いのではないかと感じる。

・私は災害時にケーブルテレビで河川の様子を見ていた。そのため危機意識を持って避難の判断をしたが、防災無線はほとんど聞こえない状況だった。災害対策本部で掌握した事実を市民に伝達する方法を具体的に構築して頂きたい。

(回答：企画政策部長・総務部長)

・この計画は、令和元年東日本台風災害を受けての復興計画であることから、まずは市民の皆様の実住みや暮らしの再建が第一と考えた。

また、復興計画自体が市の最上位計画である総合計画に含まれる。現在の総合計画は災害前の状態を示しており、全体的には「安全・安心なまちづくり」は当然のこと

として策定される。ただ、復興計画としては「住まいと暮らしの再建」の優先順位を上げた。千曲市として「安全・安心なまちづくり」を進めることに間違いはないのでご理解頂きたい。

・情報の伝達は非常に重要だと認識しているが、同時に非常に難しい。市では屋外放送や災害メール、テレビでの放送や消防団の広報を実施しているが、実際の災害時に中々伝わらないこともあり、担当者も色々と方法を検討している。

現状で一番進めたいのは市のメールサービスだが、登録が中々進んでいないので、是非登録をお願いしたい。このメールは、屋外放送の内容をすべてメールで配信するため、放送の聞こえない場所でも利用できる。

ではメールを使えない高齢者はどうするかと言うことで、昨年一人暮らしの高齢者や身体が不自由な方などの要支援者には戸別受信機を配布した。この受信機は屋外放送と同じ内容を屋内で聞くことができる。この受信機を一般家庭に設置することも検討はしているが、アンテナ工事が必要になる等、費用が掛かってしまう。そういったこともあり、まずはできる限りメールの登録をお願いしているところ。ご家庭で誰かは携帯電話やスマートフォンを持っている方がいると思うので、登録をお願いしたい。

情報伝達については重要な課題として引き続き研究させて頂く。

(質問者⑤)

・私はメール登録をしているが、それだけでは十分とは思わない。もう少し考えて欲しい。

(質問者⑥)

・災害時には大きな建物に避難をというが、大きな建物が遠い方もいる。その中で公民館へ避難した方がいたが、エレベーターがないため区の役員などが高齢者を二階へ抱えて連れて行ったという話を聞いた。避難場所を決めるにあたっては、避難場所との距離を考慮して欲しい。また、高齢者が迷惑を掛けたと考えずに済むような避難場所にして欲しい。

(回答：総務部長・健康福祉部長)

・おっしゃる通りの事実があったと思う。ただ、市では今回の反省を活かし、避難所は小中学校をメインとする予定。というのもハザードマップをご覧頂けば分かる通り、大きな水害があった場合、それに耐えられる頑丈で高さがある建物は、この辺では学校位しかない。どうしても命を守るという意味で学校への避難を考えて頂きたい。

では高齢者などがどのように避難するのかということになるが、国からは要支援者の計画を必ず作るよう指導がある。市では区長さんをお願いしながら、災害時に誰がサポートし、どこに逃げるのかといった個別の行動計画を立てているところ。ただ、

計画はあっても実際の災害で機能しなければ意味がないので、今後も検討を続ける。

また、逃げる時に重要なのは周りの声掛け。テレビなどでも見るが、人間は実際に危機が迫っても「自分は大丈夫」と考えてしまう。そんな中でも助かった方の話を聞くと、近所の方に声を掛けてもらったということが多い。そういったことから、地域で作る防災計画が重要になると考えている。マイタイムラインも含めた身近な防災計画をしっかりと進めたい。

要支援の方は市内に2,800名弱いらっしゃる。その6割近くは名簿を作成しており、さらにその9割の方が個別計画を作成している。未だすべての方の計画は作成できていないが、区長さんや民生委員さんをお願いするだけでなく、施設などと連携し、ケアマネージャーなど福祉の専門家の協力も頂きながら計画の作成を進めていく。

(質問者⑥)

- ・是非お願いしたい。

(質問者⑦)

・市が防災に関して色々と進めていることは分かった。今後も想定外の災害が起こる可能性のある中で、市の職員が災害対応力を高める訓練をすることは非常に良いことであると思う。ただ、災害が起こった場合に、市民がすぐに行動に移せるための防災訓練も必要ではないか。昨年の防災訓練はコロナウイルスの関係で中止となったが、訓練自体形骸化しているのでは。

・「安全・安心なまちづくり」の中に森林整備が入っていない。今回は土砂災害はなかったが、激しい雨が降った際に森林の保水能力は重要となる。目に見える治水だけではなく、山の整備を「安全・安心なまちづくり」に位置付けて欲しい。

(回答：総務部長・経済部長)

・おっしゃる通り、これまでの防災訓練は一種のイベントになっていた。色々なことをやっており、形骸化もあったと思う。市でも災害を機に、訓練の内容を一新するよう進めている。昨年は中止となったが、市で実施する訓練は災害の実情に合わせて実施し、逃げることに絞ったものにする予定。

また、各地区で実施する訓練についても、水害や土砂災害など地区ごとに心配される災害が異なるため、地区ごとの防災計画作成と同様に実情にあったものにして頂きたいと考えている。

・本日の資料は概要版であるため具体的に記載していないが、計画案の中ではご指摘頂いた森林の持つ水源涵養機能に関する記載をさせて頂いた。そちらでご理解頂きたい。

(質問者⑧)

- ・ 昨年の台風で実際に避難した経験から、避難所には是非エレベーターと給排水設備を備えた所を選んで欲しい。また学校を避難所とする場合には、教室を使用させて欲しい。
- ・ 避難所に責任者を配置するのは良い。避難所では災害に関する情報が少なく、また狭い所にいるためストレスが溜まる。災害対策本部からどの避難所にも同じ情報が伝達されるようにすべき。
- ・ 備蓄品の拡充を進めるべき。避難所で敷かれたブルーシートはきれいではなく、衛生的に問題を感じた。
- ・ 避難所には看護師、介護士、保健師といった方を常駐させるべき。避難所には高齢者が多いため、健康相談などができる相手がいれば安心につながる。
- ・ 避難した方に聞くと、民生委員さんが連れてきてくれたという方もいれば、それは自分の仕事ではないと言われた方もいたようだった。市としても何らかのマニュアルを作るべきではないか。非常時にはやはり地域の助け合いが重要なので、そのための体制づくりをして頂きたい。

(回答：総務部長)

- ・ 避難所にエレベーターをとということについて、避難の中心と考えている学校にはエレベーターはない。また、すぐに設置することも難しい。そうした中で、市として進めているのは民間企業との協力。実際に寿光会さんや長野電子さんなど何か所か協力の申し出を頂いている。こちらであればエレベーターもあることから、今後も進めていきたいと考えている。
- ・ 学校の教室を利用することについては、今回の災害を受けて、学校側にもご理解頂いた。今後、教室も利用していく。
- ・ 情報の伝達については検討を続けていく。すぐにできることとして、各学校に情報源としてのテレビを設置し、ケーブルテレビの御厚意により線を引いて頂いた。
- ・ 避難所の責任者についてはおっしゃる通り、しっかりとやっていく。また、避難所で誰が市職員か分からなかったという反省から、ビブスを着用することとした。
- ・ 避難所の環境が劣悪ということでご不便お掛けしたが、今回の災害では経験のない中、命を守ることを第一に考えて行動したことはご理解頂きたい。備蓄品についてはすべての学校に備蓄庫を作り、5,000万円を掛けて物資を購入した。今後も毎年備蓄品の充実に努める。
- ・ 局地的な災害についてはこれまでも保健師の派遣をしていた。しかし、19号災害のように二十数か所もの避難所を開設すると、そのすべてに行くことは難しい。ただ、今回の災害でも、二日目以降帰宅できない方については保健師が健康相談を実施している。できることからやっていきたい。
- ・ 避難の際の民生委員さんの対応については、やはり地区で防災計画を作る中で考え

ていきたい。市で一律に取り決めるよりも、自分事で計画を作ることで、やるべきことが分かりやすくなる。もちろん市もバックアップするので、そういった観点からお願いしたい。

(小川市長)

皆様、長時間にわたりありがとうございました。

本日までに皆様から頂いた質問やご意見は、市側の回答も含めて早急にホームページ等何らかの形でしっかりと公開していきたいと考えています。

また、頂いたご意見をもとにしっかりとした復興計画を策定します。

しかしながら、緊急時・非常時等には前回とはまた違った想定外の事態が起こるかもしれません。

そうしたことに備え、私は日頃の業務でも職員には、「常に想像力を持って心配りをする」「すべてを市民のために行動する」という指導をさせて頂いております。

意識改革も着実に進めて参ります。職員一同全力で取り組んで参りますのでどうぞ任せてください。

しっかりと取り組みますので、皆様のご協力もよろしくお願いしたいと思っております。
ありがとうございました。

5. 閉 会